

# 川内原子力発電所周辺の環境放射線・温排水影響調査結果

県では、川内原子力発電所の運転による影響を調べるため、発電所の試運転開始前から、周辺地域の空間放射線量や、周辺で採取した野菜・水等に含まれる放射性物質の測定、温排水の影響を調査しています。

## 空間放射線量の測定

(令和5年7月～9月)

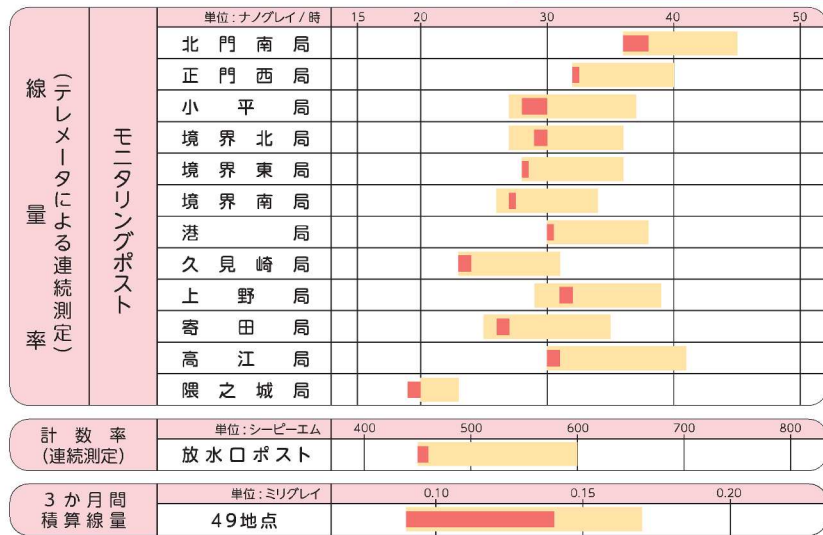
モニタリングポスト(48局\*)の空間放射線量と、発電所の放水口ポスト(1局)における海中の放射線量を、テレメータシステムを用いて常時監視しています。また、発電所周辺の49地点において、3か月間の積算線量の測定を行っています。

\*県はその他、緊急時に備えた電子式線量計を58地点に設置しています。

これまでの測定値範囲



今回の調査結果は、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。



## 川内原子力発電所周辺の測定地点



空間放射線量の測定結果については、リアルタイムで県のホームページで公表しています。

鹿児島県 環境放射線テレメータ

検索

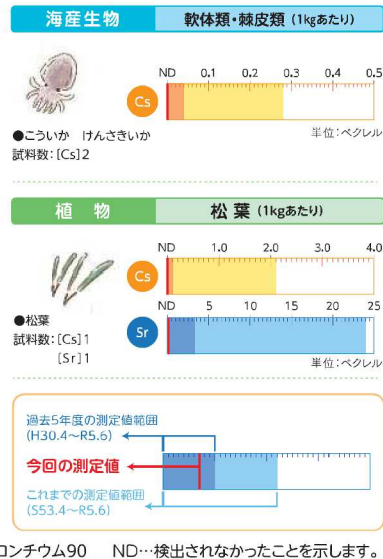
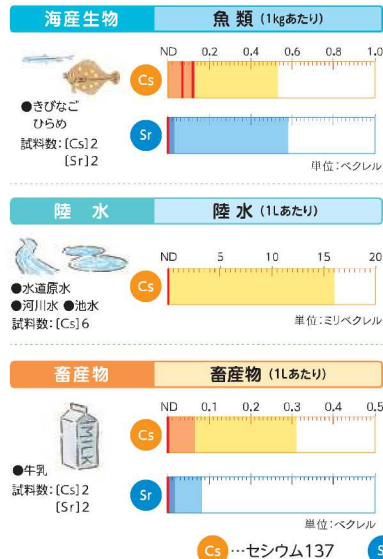


## 環境試料の放射能分析

(令和5年7月～9月)

人工の放射性物質であり、環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137、コバルト60、ストロンチウム90、ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料8試料、陸上試料30試料、合計38試料を対象としています。

今回の調査結果は、これまでと同様、過去に実施された大気圏内核実験等による影響と考えられる、ごく微量のセシウム137、ストロンチウム90が検出されていますが、異常は認められませんでした。



## 温排水影響の調査

(令和5年度 春・夏季)

温排水とは、発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために、温排水影響調査を定期的に行っています。

## 水温・塩分・流況や周辺海域の海生生物の出現状況については、おおむね過去の変動の範囲内でした。

- 水温・塩分調査** 水温計を船でひきながら、水深別に水平分布を調査しました。また、海面から海底までの鉛直分布も調査しました(令和5年7月18日)。
- 流況調査** 海中に流速計を設置し、潮流の向きや速さを調査しました(令和5年7月4日～7月19日)。
- 海生生物調査** 海藻や潮間帯生物の出現した種類や量を調査しました(令和5年5月16日～17日)。

\*本調査は電源立地地域対策交付金にて実施しています。



今回の調査結果については、県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線・温排水影響調査結果

検索

